

第 21 期（平成 27 年度）事業報告

（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）

事業活動に関する全体報告

第 21 期（平成 27 年度）は公益財団法人に移行して 2 年目となりました。南魚沼市との間では、美術館の管理運営に関する協定書（期間は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 36 年 3 月 31 日まで）に基づいて年度協定書を交わし、管理運営の補助金として年間 600 万円の指定管理料が支払われました。芸術・文学・スポーツの分野を中心に、今後とも南魚沼市と連携・協力していく所存です。

「環日本海沿岸諸国との国際交流援助事業」については応募が 1 件あり、選考委員会で審議のうえ採択いたしました。また、「国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業」は応募者がなかったため、実施することができませんでした。そのため、平成 28 年度も引き続き「市報みなみ魚沼」や「イケビふれあい通信」、ホームページなどで告知するなど、広報活動を活発に展開いたします。

展覧会部門は事業計画にあった 12 回の企画展覧会を予定通り開催いたしました。主な展覧会について説明いたします。

若い芸術家の育成・支援企画展として、東京藝術大学を卒業した 3 人の女性作家による「ムクムク展」を開催しました。この育成・支援企画展は今後とも継続いたします。

地域の交流と文化活動を促進するための企画として、「八海山夢展」「南魚沼郡市児童生徒美術展」「魚沼ベストショット展」を開催しました。

「魚沼 記録と記憶の再生プロジェクト」は新潟大学人文学部・南魚沼市と一緒に実行委員会を組織して開催した企画で、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択され、約 627 万円の文化芸術振興費補助金によって開催しました。

「斎藤真一 越後瞽女日記の世界」は上越市立博物館収蔵品、北海道在住コレクターの池田敏章氏、故斎藤真一のご子息・裕重氏の所蔵品を借用して開催した展覧会です。

また、特別展示として、当初の計画にはなかった「後藤はつの 112 歳の絵画展」「武器をアートに Arms into Art」を企画展と併催しました。後藤はつのさんは妙高市出身、東京都の最高齢者です。「武器をアートに」は国際大学との共催でモザンビークのアーティストによる作品を展示しました。この 2 つの特別展はどちらも冬期間に開催したにもかかわらず、新潟日報、NHK などの取材もあり、近年にない多くの来館者を迎え、懸案だった冬場の入館者減に歯止めをかけることができました。なお、1 月に開催した「第 2 回雪見展」は 2 日間で 2,000 人以上の来館者を記録しました。

複数の展覧会を同時開催したことによって来館者数の増加につながったことは、冬場対策として大きな進歩でした。一方、年間を通じて見ると、前年度より来館者数が減っており、足を

運びたくなる展覧会やイベントなどを企画し、来館者数の増加に努めなければならないと考えます。

スポーツ関係部門では、横浜、シアトルマリナーズで活躍した佐々木主浩氏による講演会や、各種スポーツカードの展示のほか、協賛事業として「上越沿線少年親善野球大会」「南魚沼グルメマラソン」などに参加しました。

収益事業としては「売店収入」「喫茶収入」「スポーツカードショー収入」がありますが、今年度から年3回（春・秋・冬）開催されたカードショーには県外からも多数の参加者がありました。

以下は過去3年間の入館者数、有料入館者数、事業収益です。

	入館者 (人)	有料入館者数 (人)
H27年度	16,471	7,874
H26年度	19,597	11,960
H25年度	16,556	7,806

	入館料	企画事業収 入	カードショー収入	売店収入	喫茶収入	合計(円)
H27年 度	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161	15,270,527
H26年 度	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938	15,857,689
H25年 度	3,677,800	2,374,488	987,180	2,081,002	1,283,461	10,403,931

平成26年度は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加しています。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業につき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

平成 27 年 9 月 30 日（水）に財団補助事業に関する選考委員会を開催。以下の応募事業につき審議した結果、援助事業として採択し、10 万円を補助しました。

選考委員会の構成

- 1、理事長（池田哲雄）※平成 27 年 5 月 19 日開催の理事会で委員長に選任
- 2、理事 1 名（山中正竹）※委員長指名
- 3、学識経験者 1 名（宮内孝知、元早稲田大学人間科学部教授）※委員長指名
- 4、事務局員 1 名（高橋良一）※委員長指名

援助対象：水無溪谷リバーウォーク実行委員会

援助事業：第 7 回 水無溪谷リバーウォーク（平成 27 年 10 月 25 日、日曜日）

事業目的：ウォーキング大会を通じ、国際大学に在学する環日本海沿岸諸国のモンゴル・中国を含む諸外国の学生と、南魚沼市民との交流と相互理解を深めること。

事業内容：参加者の脚力に応じたコースを設定（22 km、15 km、9 km）したウォーキング大会。終了後に地域特産「南魚沼産コシヒカリ」を使った昼食会とお楽しみ抽選会を実施。

事業報告：国際大学のモンゴル・中国を含む諸外国の学生 61 名、他市町を含む南魚沼市民 75 名、大会役員 42 名、合計 178 名によって開催され、水無溪谷の自然を満喫、会話を楽しみながら交流を図ることができました。ゴール後のコシヒカリおにぎりとお芋煮は地元産食材ということもあり、参加者に大好評でした。国際大学の学生からは「また参加したい」との声が多く聞かれ、スポーツによる国際交流と相互理解を深めることに寄与することができました。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

応募がなかったため、引き続き継続事業といたします。

3、美術館事業

1) 展覧会

① ムクムク展—東京藝大卒業作家 3 人による展覧会—

■会期：4 月 4 日（土）～4 月 29 日（水・祝） 23 日間 586 人

東京芸術大学出身の女性作家、日本画家の野口満一月さん、洋画家の岡部忍さんと永井夏夕さんの作品、合計 35 点を展示しました。3 人とも中央で活躍中の若手作家であり、地元作家との交流も図りました。作家によるギャラリートークも開催しました。

② 田中守一刻の風景—

■会期：5 月 2 日（土）～6 月 2 日（火） 26 日間 1,418 人

光風会や日展などを中心に活躍中の洋画家・田中守氏の個展。代表作「刻の風景」シリーズを中心に、初期から最新作まで約 30 年間に描かれた作品 35 点を一堂に展示しました。会期中、田中氏によるギャラリートークと八色の森公園のスケッチ会も開催し、合わせて 67 名の参加者が市内外から集まりました。

③ 第40回記念 山本安雄展—田園・風—

■会期：6月5日（金）～30日（火） 26日間 1,222人

南魚沼市在住で、南魚美術協会顧問、また当館のアドバイザリースタッフでもある山本安雄氏の個展。今回の展覧会は個展40回記念展となりました。一陽会などに出品した大作を中心に38点を展示しました。解説会「自作を語る会」を2回開催、合計で53名の参加者がありました。

④ 庭野泰明 染めの世界展

■会期：7月3日（金）～28日（火） 24日間 699人

十日町市芸術協会会長を務めた十日町市在住の染色家・庭野泰明氏の個展。故郷をテーマにした染め絵や心象風景を表現した作品のほか、着物や帯など合計64点を展示しました。染物体験教室も開催し、地元の手芸サークルの女性などが参加しました。

⑤ 第16回 八海山夢展

■会期：8月1日（土）～8月31日（月） 27日間 2,087人

地元の実画家を中心に、ふるさとの風景等をテーマにした作品を展示しました。今回は従来の5部門（絵画・書道・写真・水石・俳句）の他に、工芸部門を新設し、計147点の作品が集まりました。実行委員による実演・解説の「夢展・美のツボ」も開催、全部門合わせて66人の参加がありました。また、地元企業の八海醸造株式会社と株式会社 hakkai、株式会社いんぱんの3社から協賛していただきました。

⑥ 光の記憶—南うおぬま地域映像アーカイブ

■会期：9月4日（金）～10月6日（火） 17日間 1,297人

南魚沼市・新潟大学・池田記念美術館で実行委員会を組織して開催した事業で、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」として助成をうけた展覧会です。新潟大学地域映像アーカイブが所蔵する南魚沼市の幕末から昭和にかけての写真と映像を展示しました。関連イベントとして、講演会とシンポジウムを開催。地域映像アーカイブの映像資料を教育現場で有効に活用するため、教員を対象としたワークショップと、実際に授業で実践する児童向けワークショップも開催しました（11月～2月）。また、事業の締めくくりとして、実績をまとめた報告書を作成しました。これは南魚沼市の映像資料の魅力を広く紹介する写真集として、日英二言語で表記し、国内の図書館・美術館・博物館ほか、海外の40施設にも配布しました。

⑦ 彫刻家 工藤健・日高頼子夫妻展

■会期：10月10日（土）～11月9日（月） 27日間 1,415人

南魚沼市にアトリエを構える彫刻家の工藤健・日高頼子夫妻による展覧会。夫の工藤健氏は、公益社団法人二科会参与、多摩美術大学名誉教授、日本美術家連盟会員。妻の日高頼子さんは公益社団法人二科会参与、日本美術家連盟会員で、二科会を中心に数々の賞を受賞しています。彫刻家として活躍している二人の作品38点を展示しました。ギャラリートークを2回開催、工藤氏が多摩美術大学教授時代に制作したDVD「塑造への誘い」を使ってブロンズ鑄造について解説した回は好評でした。

⑧ 斎藤真一—越後瞽女日記の世界—

■会期：11月14日（土）～12月14日（月） 23日間 1,038人

瞽女とは、三味線を手に唄をうたい、村から村へ旅してまわった目の不自由な女性たちです。斎藤真一は、失われつつある瞽女に魅せられ、高田瞽女について10年以上にわたって調査記録し、代表作「越後瞽女日記」を描きました。今回の展覧会は、斎藤の油彩画と絵巻など57点を展示しました。併せて、斎藤真一の原画を使用した書籍やレコードジャケット、高田瞽女の写真、三味線などの関連資料も展示し、瞽女について紹介しました。関連イベントとして、斎藤真一コレクターの池田敏章氏による講演会と瞽女唄ミニコンサートも開催しました。

⑨ 日本水墨院新潟県支部水墨画展

■会期：12月18日（金）～12月23日（水） 6日間 449人

日本水墨院新潟県支部の会員による展覧会で、会員の水墨画50点を展示しました。

⑩ 【冬季特別展示】後藤はつこの112歳の絵画展

■会期：12月18日（金）～3月21日（月・振休） 67日間 6,548人

後藤はつこのさんは妙高・赤倉温泉出身で、73歳から絵を描き始め、81歳から99歳まで100号の油絵を描き続けました。現在、東京都の最高齢者となり、今なお元気に百人一首や詩吟に挑戦し、おしゃれに人生を謳歌するスーパーレディです。はつこのさんの絵画22点を展示し、大勢の来館者に元気と勇気を与えてくれました。

⑪ 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月8日（金）～1月19日（火） 11日間 3,434人

（うち雪見展来館者2,077人含む）

南魚沼市及び湯沢町の子供たちの作品を約500点展示しました。子供たちの創作意欲が「いきいき」と伝わってくる展覧会でした。期間中は入館無料としました。

⑫ 魚沼ベストショット展Part V

■会期：1月22日（金）～2月28日（日） 24日間 1,795人

県内外の写真家から、風景や暮らしなど、魚沼地域の変化に富んだ美しい自然を表現した自慢のベストショットを出展していただきました。今回で5回目となり、市内外に魚沼からのメッセージを発信する自然賛歌の展覧会となりました。写真教室も開催し、高校の写真部生徒からお年寄りまでが参加しました。参加者の撮影した写真について、講師から講評をしていただき、期間中パネルに展示しました。

⑬ 霜鳥健二彫刻展—鉄—

■会期：3月3日（木）～4月4日（月） 25日間 1,208人

南魚沼市出身の彫刻家・霜鳥健二氏の個展で、鉄を素材とした彫刻を展示しました。霜鳥氏は、素材としての鉄の可能性を探求し、鉄との格闘の中から新しいイメージを創作してきました。東日本大震災を経験し制作した「ゆらぎ」や、大地の芸術祭に合わせて制作された「Ashitaki」、熱でゆがむ鉄の性質をそのまま作品に生かした「隙間」、心の拠り所となる風景を表現した「原風景」など、24点を展示しました。

⑭ 【特別展示】Arms into Art 武器をアートに

■会期：3月3日（木）～3月29日（火） 24日間 1,028人

独立後、長期間にわたり内戦で苦しんだアフリカのモザンビークにおいて、「銃を鋏に」というプロジェクトのもと、武装解除によって集められた銃などの武器をアートに変えようというユニークな活動から生まれた作品を国際大学との共催で展示しました。作品としての感動とともに、平和の尊さをあらためて考えさせてくれた展覧会でした。

2) スポーツ関係展覧会

① 元メジャーリーガー・佐々木主浩氏のトークショーを開催

■5月23日(土) 14:00~15:00

佐々木主浩氏のトークショーを開催しました。80名の参加者があり、地域のスポーツファン、野球ファン、スポーツ関係者と交流を深めました。

② 「2015 ベースボールカード」の展示

■会期：4月18日(土)～11月9日(月)

ベースボールカードに見る「温故知新」と題し、「2015 ルーキーエディション」「ヒストリックコレクション 2015 思い出のユニフォーム」「プロ野球 80 周年カード 投手編/打者編」を展示しました。また、9月からは「2014 追憶の大洋ホエールズ」「追憶の阪急ブレーブス」「追憶の南海ホエールズ」「追憶の近鉄バッファローズ」「分冊百科 セ・パ誕生 60 年 付録カード」を展示しました。11月14日以降は、スポーツカード展示室を企画展で使用するため、2階廊下特設スペースでカードを展示しました。

③ 「2015 サッカーカード」「2016 大相撲カード」の展示

サッカーカードと大相撲カードについては、新たに多目的ホールをカード展示に使用するため、4月以降の展示に持ち越しました。

4、スポーツ協賛事業

地域のスポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会参加等の形で地域のスポーツ交流の促進に貢献しました。

① 第66回ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2015年5月23日(土)～24日(日)

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団 / 株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場、青島野球場、小出中学校

記念講演会：23日 18:00～20:00 佐々木主浩氏による講演と実技指導

② 第11回さわやかジョギング大会

日時：2015年6月7日(日) 9:00～11:30

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団 / 株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 第6回南魚沼グルメマラソン

日時：2015年6月14日(日) 8:30～17:00 前夜祭：13日(土) 14:00～17:00

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

実行委員会に1名参加、出展業者として物販(ウェア、ラフカディオ珈琲、入館券ほか)参加

④ 第8回八色の森健康ウォーキング

日時：2015年9月23日(水・祝日) 9:00～12:30

運営役員として池田記念財団から2名参加、他物販(ウェア)

5、収益事業

1) 売店収入

本年度も作家の小作品や作品集、グッズ等をショップに飾り、企画展等に連動したミニギャラリーを開いて売り上げアップを図りました。

2) 喫茶収入

癒しの場所として利用していただけるように、ラジオや「イケビふれあい通信」などで案内し、また、企画展と連動してコーヒーチケットを事前発売するなど売上増を図りました。

3) スポーツカードショー収入

恒例となった「BBM スポーツカードショー」を実施しました。スポーツ文化展示室との連動やスポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指しました。

① BBM スポーツカードショー2015 春の陣 in 浦佐

(池田記念美術館エントランスホールで実施)

■日時：2015年4月18日(日) 10:00～16:00 57名参加

② BBM スポーツカードショー2015 秋の陣 in 浦佐

(池田記念美術館エントランスホールで実施)

■日時：2015年11月21日(土) 10:00～16:00 52名参加

③ BBM スポーツカードショー2016 冬の陣 in 浦佐

(池田記念美術館エントランスホールで実施)

■日時：2016年1月30日(土) 11:00～15:00 31名参加

6、その他

① 雪見展

■1月10日(日)～11日(月・祝) 2日間 2,077人

今回で2回目の開催となりました。40点以上のショップが並び、ワークショップや風の又三郎のデッサンコーナーも設置。子どもから大人まで楽しめるお祭りになりました。

② 一箱古本市@池田記念美術館

■夏季：6月12日(金)～6月28日(日) 出店者35人

■冬季：1月8日(金)～1月19日(火) ※雪見展期間中 出店者25人

出店者がワイン箱を使って古本を販売。出店者の個性が光り、本を介して出店者同士や来館者とのコミュニケーションが生まれ、好評でした。